

桂川町の財務諸表を公表します

平成18年6月に「簡素で効率的な政府を実現するための行政改革の推進に関する法律」が成立し、同法を踏まえ、地方公共団体の資産・債務負担改革の一環として、財務諸表を整備することが求められています。これに基づき、桂川町では、企業会計的な手法を取り入れた財務諸表4表(貸借対照表(=バランスシート)、行政コスト計算書、純資産変動計算書、資金収支計算書)の作成に取り組んできました。

そこでこの度、町民の皆さまに町政をより身近に感じていただくため、総務省方式改訂モデルによる平成22年度普通会計財務諸表を公表します。今後も桂川町では、財務諸表の作成を継続して行い、行財政運営に活用していきます。また、町民の皆さまへは、わかりやすい行財政の情報開示に努めます。

貸借対照表

現在までに、桂川町がどれくらいの土地や建物、現金などの資産を所有しており、一方で地方債などの将来世代の負担がどれくらいあるのかを明らかにしてくれるのが、「貸借対照表」です。

左右の合計額が等しいこと、現時点の資産と負債などの残高(=バランス)を示していることから、「バランスシート」とも呼ばれます。

桂川町の貸借対照表(総額)

資産				負債			
	H22	H21	年度間の変動		H22	H21	年度間の変動
1. 公共資産	162.4	164.2	△1.8	1. 負債合計	58.9	59.5	△0.6
2. 投資等	16.7	15.7	1.0	純資産(資産-負債)			
3. 流動資産	6.7	4.9	1.8	1. 純資産合計	126.9	125.3	1.6
資産合計	185.8	184.8	1.0	負債・純資産合計	185.8	184.8	1.0

道路や学校、現金など町が所有する資産の総額

資産形成のための地方債や退職手当などの総額

資産から負債を差し引いた金額

桂川町の貸借対照表(住民1人あたり) ※各年度末(3月31日)時点の住民基本台帳人口で算定

	H22	H21	年度間の変動		H22	H21	年度間の変動
資産合計	130.2	128.7	1.5	負債合計	41.3	41.5	△0.2
				純資産合計	88.9	87.2	1.7

貸借対照表の区分

資産: 桂川町が所有する、道路や学校、現金などの資産の総額を表しています。

負債: 地方債などの借金や、退職手当引当金などの将来負担額を表しています。

純資産: 資産から負債を差し引いた金額です。

○桂川町では、約185.8億円の資産を所有しています。

○今後将来世代への負担として、負債額は約58.9億円あり、住民1人あたりでは約41.3万円です。

○資産から負債を差し引いた金額が約126.9億円あり、これらは現在までの世代によって支払いが済まされた部分であるといえます。

行政コスト計算書

福祉サービスの提供やごみの収集など、桂川町の行政サービスに1年間に費やしたコストと、それらのサービスに対して、住民の皆さまからお支払いいただいた使用料・手数料などの直接負担額との関係を見ることができます。

桂川町の行政コスト計算書(総額、住民1人あたり) ※各年度末(3月31日)時点の住民基本台帳人口で算定

	総額 (単位:億円)			住民1人あたり (単位:万円)		
	H22	H21	年度間の 変動	H22	H21	年度間の 変動
1. 人にかかるコスト	9.4	9.7	△0.3	11.3	11.8	△0.5
2. 物にかかるコスト	13.6	14.5	△0.9	16.1	17.5	△1.4
3. 移転支出的なコスト	20.5	19.1	1.4	24.4	23.1	1.3
4. その他のコスト	1.5	1.6	△0.1	1.8	1.9	△0.1
行政コスト合計 (A)	45.0	44.9	0.1	53.6	54.3	△0.7
使用料などの収益合計 (B)	2.2	2.3	△0.1	2.6	2.8	△0.2
純経常行政コスト (A)-(B)	42.8	42.6	0.2	51.0	51.5	△0.5

行政コストの区分

1. 人にかかるコスト
人件費など
2. 物にかかるコスト
維持補修費や委託料など
3. 移転支出的なコスト
障がい者福祉に係る扶助費や、国民健康保険・後期高齢者医療・介護保険への繰出金など
4. その他
公債費の利子の支払いなど

○桂川町では行政サービスの提供のために、1年間に約45.0億円のコストを費やしています。また、住民1人あたりに換算すると、約53.6万円のコストになります。

○行政サービスに対する使用料・手数料などの住民による直接負担額(収益)は、約2.2億円です。

○1年間のコストから、使用料などの負担額を差し引いた金額は約42.8億円です。

純資産変動計算書

桂川町の純資産(貸借対照表の資産と負債の差額)が、1年間でどのように変化したのかを明らかにします。

	(単位:億円)		
	H22	H21	年度間の 変動
期首純資産残高	125.3	123.8	1.5
経常行政コスト	△42.8	△42.6	△0.2
経常収入	45.4	45.3	0.1
臨時損益	△1.0	△1.2	0.2
期末純資産残高	126.9	125.3	1.6

○桂川町では、前年度に比べ純資産が約1.6億円増加しました。

資金収支計算書

1年間の桂川町の現金の歳入と歳出が、どのように増減しているかを、性質別に区分して整理したものです。

	(単位:億円)		
	H22	H21	年度間の 変動
期首資金残高	2.2	1.5	0.7
1. 経常的収支	9.4	10.8	△1.4
2. 公共資産整備収支	△2.0	△2.0	0.0
3. 投資財務的収支	△7.5	△8.1	0.6
当年度資金増減額	△0.1	0.7	△0.8
期末純資産残高	2.1	2.2	△0.1

○桂川町では、前年度に比べ年度末時点の歳計現金は減少しておりますが、基金などへの積立を行っている結果であり、財政調整基金などを含んだ現金残高は前年度より増加しています。